

令和 3 年 12 月 14 日

大阪ガス株式会社  
代表取締役社長 藤原正隆 様

公益財団法人 日本野鳥の会  
理事長 遠藤 孝一

ネイチャー研究会 in むかわ  
代表 小山内 恵子

日本野鳥の会 苫小牧支部  
支部長 鷺田 善幸

## タンチョウの繁殖確認による（仮称）苫東厚真風力発電事業の撤回を求める要請書

日頃より、当会ならびに連名団体の活動に関しまして、ご理解やご協力をいただき、誠にありがとうございます。

当会などが今年度を実施した繁殖期の調査結果のとりまとめが終わりましたので、貴社のグループ会社が本年 2 月に環境影響評価方法書を公告・縦覧した（仮称）苫東厚真風力発電事業に対し、タンチョウ等の希少鳥類保全の見地から改めて下記の通り要請します。

### 記

当会らが令和 3 年 2 月 19 日付で提出した「（仮称）苫東厚真風力発電事業に係る環境影響評価方法書に対する意見書」にもあるように、貴社が北海道・苫小牧市から厚真町にかけて計画している（仮称）苫東厚真風力発電事業に係る事業実施想定区域（以下、計画地という）とその周辺は、ラムサール条約湿地や二つの IBAs および KBA に囲まれ、これまでに 277 種の鳥類が観察されるなど国内でも有数の鳥類相の豊かさを有しており、近年においてもマガン、タンチョウ、シマクイナ、ヘラシギ、オジロワシ、オオワシ、チュウヒ、ハヤブサ、アカモズといった国内希少野生動植物種および天然記念物に指定される鳥類の生息が確認されるなど、計画地はこれらの鳥類の生息において国内でも有数の生物多様性ホットスポットになっており、それらのことは、方法書に対する北海道知事意見や専門家等へのヒアリング結果でも述べられています。

今年の 7 月 31 日から 8 月 1 日にかけて、計画地を含めた浜厚真地区で生物相調査である浜厚真 Bioblitz 2021 が実施されました。その結果、全国的に極端に個体数が少なく国内希少野生動植物種に

指定されているチュウヒとアカモズの繁殖が確認され、これらの種が毎年繁殖している浜厚真地区とその周辺は種の存続にも関わる重要な生息地となっていることが分かりました（先崎ほか 2021）。また、これまでの調査により、シロチドリ、マキノセンニュウ、ハイタカ、オオタカ、オジロワシなどの希少種にとっても重要な繁殖地となっており、サンカノゴイやウズラも繁殖している可能性があることも分かりました。

また、ネイチャー研究会 in むかわ、酪農学園大学、（一社）タンチョウ研究所による共同調査では、2017年に続き今年も1つがいのタンチョウが計画地内で繁殖し、7月17日まで2羽の幼鳥を含む親子で浜厚真地区に生息していたこと、そして、計画地が今後もタンチョウにとって重要な繁殖環境を提供し続ける可能性が高いことが確認されています（日本野鳥の会 苫小牧支部 2021）。

さらに、（公財）日本野鳥の会が2021年に行った計画地とその周辺におけるチュウヒの繁殖状況調査では、6つがいのチュウヒが繁殖を開始し、2つがいで4羽の幼鳥を巣立たせたことを確認しています（日本野鳥の会 未発表）。

上記の希少鳥類には、風力発電施設（以下、風車という）の建設によるバードストライクや生息地放棄の発生など影響を受けやすい種が多く含まれ、当該事業の実施が計画地およびその周辺に生息するこれらの希少鳥類に及ぼす影響は大きいことから、事業を中止しない限りは、影響を回避できないと予測します。また、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の第三十四条にある「土地の所有者又は占有者は、その土地の利用に当たっては、国内希少野生動植物種の保存に留意しなければならない。」という土地所有者の義務や文化財保護法における天然記念物の保存への配慮義務に鑑みても、計画地で風車の建設が上記の希少鳥類の生息に影響を与えるべきではありません。

そのため、当会はタンチョウをはじめとしてチュウヒやアカモズ等の多くの希少鳥類の保全の見地から、貴社に対しては、環境影響評価準備書の作成に進まず、現段階で事業を中止し白紙撤回することを要請します。

以上

●参考資料：

- ・先崎理之，松井晋，江崎逸郎，大畑孝二，中村聡．浜厚真の鳥類～浜厚真 Bioblitz2021 報告～．石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク．  
<https://www.hokkaidoramsarnetwork.com/post/bioblitz2021-birds>
- ・日本野鳥の会 苫小牧支部．あおさぎ 238 号（2021 年 11 月号）

●添付資料：

- ・日本野鳥の会 苫小牧支部．あおさぎ 238 号（2021 年 11 月号）